

F★★★★

ホルムアルデヒド登録認定商品

非トルエン・キシレン塗料

(一社)日本塗料工業会 室内環境対策の自主表示
ガイドライン「非トルエン・キシレン塗料」に適合

環境性能と防食性に優れた
水性さび止め塗料が誕生!!



JIS K 5674 鉛・クロムフリー
さび止めペイント 2種 合格品

AQUA MACS

外部・内部兼用

速乾・高性能水性特殊変性エポキシさび止め塗料

アクアマックス EX

EX

防錆力

JIS K 5674 鉛・クロムフリー
さび止めペイント 2種 合格品

低VOC

0.3%

完全水系仕様

水性上塗り塗料を
組み合わせれば
完全水系仕様が実現

速乾

4時間 (23℃) で
上塗り (水性) が可能



関西ペイント

速乾・高性能水性特殊変性エポキシさび止め塗料

アクアマックス EX

優れた環境性能

- ▲ JIS K 5674 鉛・クロムフリーさび止めペイント 2種 合格品です。
- ▲ ホルムアルデヒドの放散等級区分はF☆☆☆☆です。
- ▲ 塗料中のVOCは0.3%で屋内でも安心です。
- ▲ 重金属は配合しておりません。

優れた作業性

- ▲ 水性で一液型なので扱いやすい塗料です。
- ▲ 乾燥性に優れています。
- ▲ 塗装作業性に優れています。

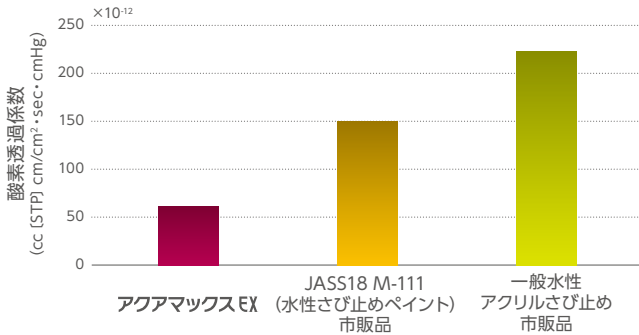
▲ 用途

外部・内部における一般鉄部

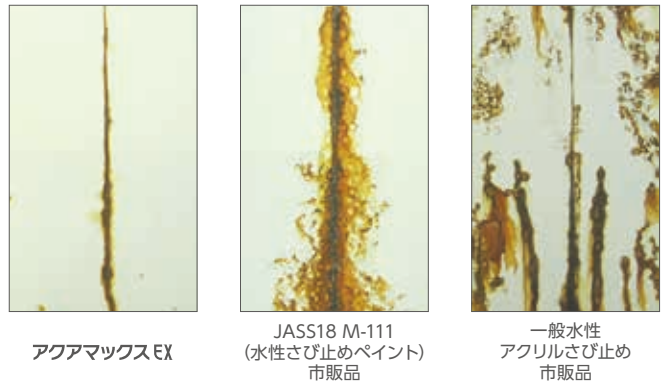
- ◆ 建屋鉄骨 ◆ 架台 ◆ 看板 ◆ 手すり ◆ 鉄扉 ◆ 門扉 ◆ 軽量鉄骨 などの防錆用に!

▲ 酸素透過係数

酸素透過係数の値が小さい方が、酸素を透過しにくい。



▲ 塩水噴霧試験240時間



▲ 試験成績表 JIS K 5674 鉛・クロムフリーさび止めペイント 2種

試験項目	試験規格	アクアマックスEX	JASS18 M-111 (水性さび止めペイント) 市販品
容器の中の状態	かき混ぜたとき、堅い塊がなく一様になる	合格	合格
低温安定性 (-5℃)	変質しない	合格	合格
塗装作業性	支障がない	合格	合格
表面乾燥性	表面乾燥する	合格	合格
塗膜の外観	正常である	合格	合格
上塗り適合性	支障がない	合格	合格
耐屈曲性	折り曲げに耐える	合格	合格
付着安定性	はがれを認めない	合格	合格
サイクル腐食性	36サイクルで彫れ、はがれ及びさびがない	合格	合格
加熱残分	50%以上 (質量分率)	合格	合格
塗膜中の鉛	0.06%以下 (質量分率)	合格	合格
塗膜中のクロム	0.03%以下 (質量分率)	合格	合格
防せい (錆) 性	24ヵ月の防せい (錆) 性を持つ	合格	× 不合格
試験に適用した上塗り塗料		アレス水性ナノトップU	JIS K 5660:2008 (つや有り合成樹脂エマルジョンペイント) 市販品

AQUA MACS EX

優れた防食性

- ▲ 屋外でも錆に強い水性さび止めペイントです。
- ▲ 公共建築工事標準仕様書・公共建築改修工事標準仕様書のEP-G塗り（鉄鋼面および亜鉛めっき鋼面）の屋内仕様に適用できます。
- ▲ 屋外仕様においても完全水性仕様が実現できます。

▲ 適用下地

素材種類	内部		外部	
	塗替 ※1	新設	塗替 ※1	新設
鉄	○	○	○	○
電気亜鉛メッキ	○ ※2	○ ※3	○ ※2	△
溶融亜鉛メッキ	○ ※2	○ ※3	○ ※2	×
アルミ	○ ※2	○ ※3	○ ※2	×

○：さび止め塗料の本来の推奨適用素材です。○：適用可能ですが、入念な研磨が必要です。
 △：事前に付着性を確認してください。 ×：不適
 注) 錆を除去し、ペーパー研磨等での目粗しを行い清浄な面とした後、塗装してください。
 注) 外部の屋根、屋上部位、積雪、没水部位等には適用できません。
 ※1) 塗替え時には、旧塗膜適性をご確認ください。
 ※2) 旧塗膜の付着劣化により、旧塗膜を除去した部分は素材が露出しておりますので新設時と同様の処理を施してください。
 ※3) 十分に研磨を行い、足がかりをつくってください。

▲ 塗料性状

塗料系統	水性特殊変性エポキシさび止め塗料
色	グレー (N7.5近似)・赤さび色
比重	1.30 (グレー)
加熱残分 (%)	54% (グレー)
ホルムアルデヒド等級区分	F☆☆☆☆
TVOC (%)	1.0%以下
環境ホルモン物質	配合せず
鉛・クロム	配合せず

▲ 上塗適性

屋外	水性	アレス水性ナノトップU
	弱溶剤	セラMレタン、カンベ1液MレタンHGなど
屋内	水性	アレス水性ネクスト、アスカII

注) その他水性上塗塗料の適用については別途ご相談ください。
 注) 強溶剤系上塗塗料を適用した場合、本品が溶解したり、チヂミが発生することがありますので、適用しないでください。
 注) 弱溶剤系上塗塗料を適用する場合、8時間以上の間隔をあけてください。

▲ 使用方法

塗装器具	ハケ・ローラー	エアレス
下地調整	被塗面のミルスケール・サビ・油・水分などを除去し、塗面を清掃してください。	
調合	使用前によくかきまぜ均一にしてください。	
希釈剤	上水	上水
希釈率 (%)	0~5%	0~5%
標準所要量 (kg/m ²)	0.14	0.17
エアレス条件	—	二次圧: 10Mpa以上 チップ: No.163-515~619

注) 標準所要量は個々の条件によって、異なります。

▲ 旧塗膜適性

一般名称	旧塗膜適性
フッ素樹脂塗料	×
アクリルシリコン樹脂塗料	×
ポリウレタン樹脂塗料	○
合成樹脂調合ペイント	○
エポキシ樹脂塗料	○
つや有合成樹脂エマルションペイント	○

○：適性あり ×：不適
 注) 埃や油などを必ず除去し、旧塗膜の目粗しは入念に実施してください。

▲ 乾燥条件および塗り重ね時間

温度	5℃	23℃	30℃
指触	30分	20分	15分
半硬化	50分	30分	25分
塗り重ね時間 ※4	6時間以上	4時間以上	3時間以上

※4) 塗り重ね時間：水性上塗塗料の場合です。但し、乾燥時間・塗り重ね時間は塗装環境（湿度・換気・風通し易さなど）や膜厚、更に被塗物の表面温度などによって変動します。

標準塗装仕様〈例〉

屋内鉄部

工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)	希釈剤 (希釈率)	
1	素地調整	[新設の場合] あらかじめ工場でさび止め塗装された面の劣化した塗膜、浮き錆は入念にケレンし除去する。 油脂、汚れなどはワイヤーブラシ、サンドペーパーなどで除去し、清浄な面とする。 [塗替の場合] 電動工具、手工具を用いて劣化した旧塗膜を除去し、浮き錆は入念にケレンし、除去する。				
2	補修塗り	[新設の場合] 工場塗装された溶剤形さび止め塗膜における架設時の欠損部を現地にて、アクアマックスEXで補修塗る。 [塗替の場合] 素地の露出がある場合にはアクアマックスEXを補修塗る。				
		アクアマックスEX	0.14	ハケ、ローラー (短毛)	4時間以上7日以内	上水 (0~5%)
3	下塗り	アクアマックスEX	0.14	ハケ、ローラー (短毛)	4時間以上7日以内	上水 (0~5%)
4	上塗り (1回目)	アスカII	0.13	ハケ、ローラー (短毛)	2時間以上7日以内	上水 (5~10%)
5	上塗り (2回目)	アスカII	0.13	ハケ、ローラー (短毛)	-	上水 (5~10%)

屋内・屋外鉄部

工程	塗料名・処置	標準所要量 (kg/m ² /回)	塗装方法	塗装間隔 (23℃)	希釈剤 (希釈率)	
1	素地調整	[新設の場合] あらかじめ工場でさび止め塗装された面の劣化した塗膜、浮き錆は入念にケレンし除去する。 油脂、汚れなどはワイヤーブラシ、サンドペーパーなどで除去し、清浄な面とする。 [塗替の場合] 電動工具、手工具を用いて劣化した旧塗膜を除去し、浮き錆は入念にケレンし、除去する。				
2	補修塗り	[新設の場合] 工場塗装された溶剤形さび止め塗膜における架設時の欠損部を現地にて、アクアマックスEXで補修塗る。 [塗替の場合] 素地の露出がある場合にはアクアマックスEXを補修塗る。				
		アクアマックスEX	0.14	ハケ、ローラー (短毛)	4時間以上7日以内	上水 (0~5%)
3	下塗り	アクアマックスEX	0.14	ハケ、ローラー (短毛)	4時間以上7日以内	上水 (0~5%)
4	上塗り (1回目)	アレス水性ナノトップU	0.13	ハケ、ローラー (短毛)	2時間以上7日以内	上水 (0~10%)
5	上塗り (2回目)	アレス水性ナノトップU	0.13	ハケ、ローラー (短毛)	-	上水 (0~10%)

※塗装間隔が7日以上になる場合には各工程間でペーパーがけを行ってください。
※端部などは一般にスケ易いので先に拾い塗りなどの処理を必要に応じて行ってください。
※希釈率は必ずお守りください。

施工上の注意事項

- 顔料沈降している場合がありますので、開缶後よくかき混ぜて中味を均一にしてください。
- 旧塗膜に光沢感がある場合と著しくチョーキングが発生している場合は、入念に目粗しを行ってください。
- さびが残存した面に塗装されると、点さびが発生する場合があります。従って、さびの除去は入念に実施してください。
- さびが残存し、さびの除去が十分に行えない塗装部位や海浜地区などの厳しい環境には溶剤形さび止め塗料をお勧めします。
- 新設物件などで、工場塗装される場合にも溶剤形さび止め塗料をお勧めします。架設後の塗装は本品をご使用ください。
- 素材 (旧塗膜が無い) へ塗装した本品にピンホールや本品の塗り残し部が存在した場合、水性上塗り塗料を塗装すると点さびが発生しますので、本品は必ずピンホール (ハケ塗りを推奨) や塗り残しがないよう塗装してください。
- 水による希釈は規定量を厳守してください。過希釈はタレやハジキが生じ易く、さらに膜厚確保ができず耐久性が損なわれます。
- ナイロン刷毛をご使用ください。動物刷毛は刷毛が固まったり、ブツが生じる場合があります。
- 速乾性のため、刷毛やローラーが固まる場合があります。休憩時間等で作業時間に空きがある場合は、塗料に浸し密閉するなどの処置を行ってください。
- 一度に厚く塗りすぎると、乾燥不良や中腫が生じますので、規定膜厚を遵守してください。
- 塗装用具の洗浄は水で行えますが、取れにくい場合はラッカーシンナーをご使用ください。
- 本品は反応硬化形塗料ですので、洗浄は作業が終了した時点で行ってください。
- 降雨が予想される場合は、塗装を避けてください。
- 5℃以下の低温、75%以上の高湿度、または換気が十分ではなく結露が生じる場合は塗装を避けてください。
- 塗り重ね時間は塗装環境 (温度・湿度・換気・風通し易さ) や膜厚によって変動します。
- 取り合いなどによって弱溶剤形上塗り塗料を塗装される場合は、塗り重ね時間を十分に確保することをお願いします。
- エアレスによる塗装の場合は、塗装ミストによる汚染防止のために十分な養生を行ってください。
- 結露が生じ易い部位や没水部への適用は避けてください。

ご使用上の注意事項

下記の注意事項を守ってください。
詳細な内容については安全データシート (SDS) をご参照ください。

予 防 策

取り扱い作業中・乾燥中とともに換気のよい場所で使用し、粉じん・ヒューム・ガス・ミスト・蒸気・スプレーを吸入しないこと。必要な保護具 (帽子・保護めがね・マスク・手袋等) を着用し、身体に付着しないようにすること。
吸入に関する危険有害性情報の表示がある場合、有機ガス用防毒マスク、又は、送気マスクを着用すること。又、取り扱い作業場所には局所排気装置を設けること。
皮膚接触に関する危険有害性情報の表示がある場合、頭巾・えり巻きタオル・長袖の作業着・前指を着用すること。
本来の目的以外に使用しないこと。
指定材料以外のものとは混合 (多液品の混合・希釈等) しないこと。
缶の取っ手を持って振ったり、取っ手をロープやフックで吊り下げたりしないこと。
取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがい、及び、鼻孔洗浄を十分行うこと。
使用済みの容器は、火気、溶接、加熱を避けること。
本品の付いた布類や本品のかす等は水に浸して処分すること。

対 応

目に入った場合：直ちに、多量の水で洗うとともに医師の診察を受けること。
皮膚に付着した場合：直ちに拭き取り、石けん水で洗い落とし、痛みや外傷等がある場合は、

医師の診察を受けること。
吸入した場合：空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けること。
飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。
漏出時や飛散した場合は、砂、布類 (ウエス) 等で吸い取り、拭き取ること。
火災時には、炭酸ガス、泡、又は、粉末消火器を用いること。

保 管

指定容器を使用し、完全にふたをして湿気のない場所に保管すること。
直射日光、雨ざらしを避け、貯蔵条件に基づき保管すること。
子供の手の届かない場所に保管すること。又、関連法規に基づき適正に管理すること。

廃 棄

本品の付いた布類や本品のかす、及び、使用済み容器を廃棄するときは、関連法規を厳守の上、産業廃棄物として処分すること。(排水路、河川、下水、及び、土壌等の環境を汚染する場所へ廃棄しないこと。)

施工後の安全

本製品は揮発性の化学物質を含んでいますので、塗装直後の引渡しの場合は、施主様に対して安全性に十分に注意を払うように指導してください。例えば、不特定多数の方が利用される施設などの場合は、立看板などでペンキ塗り立てである旨を表示し、化学物質過敏症ならびにアレルギー体質の方が接することのないようにしてください。

関西ペイント販売株式会社

関西ペイントホームページ
www.kansai.co.jp

本社 TEL (03) 5711-8904 FAX (03) 5711-8934
北海道 TEL (0133) 64-2424 FAX (0133) 64-5757
東北 TEL (022) 287-2721 FAX (022) 288-7073
北関東 TEL (028) 637-8200 FAX (028) 637-8223
東京 TEL (03) 5711-8905 FAX (03) 5711-8935
中部 TEL (052) 262-0921 FAX (052) 262-0981
大阪 TEL (06) 6203-5701 FAX (06) 6203-5603
中国 TEL (082) 262-7101 FAX (082) 264-3285
四国 TEL (0877) 24-5484 FAX (0877) 24-4950
九州 TEL (092) 411-9901 FAX (092) 441-3339



※製品改良のため仕様は予告なしに変更することもございますのでご諒承ください。

ご用命は